

言語活動の充実を図る，効果的な授業展開の工夫

～言語活動の充実を通して，確かな力をつける指導～

多治見中学校 伊藤伸晃

1 授業改善の視点

授業振り返り表より

- ・確かな力をつけるための，言語活動の場の設定と方法の工夫

2 具体的な実践

(1) ペア活動で，互いの考えを伝え合う



数学の授業(単元名「平方根」)において，単位時間の終末の段階で，本時学習した「平方根の加法・減法」の計算方法を利用し，練習問題に取り組みさせた。その際に，立って隣同士でペアをつくり，B4サイズのプリントに記載された2問の練習問題を，ペアの子に解き方を説明しながらプリントに計算方法と答えを記入していった。

この活動によって，仲間のつまづきを指摘したり，仲間の発言から，自分のつまづきに気づいたりすることができた。ペア活動後に個で取り組んだ練習問題では，全員が全問正解をすることができた。

- ・隣の子と確認しながら問題を解いたことで，自信がついた。
- ・ペアで交流したときに，自分の間違いを指摘してもらえたので，最後の練習問題では，全問正解することができた。

【生徒の振り返りより】

(2) 自己表現する場を段階的に位置づける

英語の授業(単元名「Lesson5 My Dream」)において，自分の夢を，相手の理解を確かめながら，分かりやすく伝えるスピーチをする活動を行った。



その際に，最初に教師の発話モデルのVTR(良い例と悪い例)を見せ，違いを比べることで，本時の目指す姿を明確にした。次に，自分の原稿に工夫すべき点(スピード，ジェスチャー，強調，繰り返しなど)を書き込み，仲間と1対1のスピーチを，相手を変えながら複数回行った。その後，中間交流の場を設け，目指す姿に近い生徒をピックアップし，全体の前でモデルスピーチを行った。このことで，仲間の姿から，再度目指す姿が明確になり，その後の自分のスピーチに取り入れることができた。

- ・スピーチに少し工夫を加えることで，相手が理解しやすくなることが分かった。
- ・理解確認やジェスチャーを取り入れてスピーチをすることができた。分かりやすい言い換えをすることも大切だということが分かった。

【生徒の振り返りより】

3 実践を振り返って考えられること

- ・実践1においては，自分の思考の流れを仲間と交流することで，自分の考えに自信をもったり，自分のつまづきに気づいたりすることができた。
- ・実践2では，仲間の姿から自らの姿を振り返り，自分のスピーチに生かすことができた。
- ・2つの実践を通して，仲間同士での交流の場を意図的に仕組むことで，話す必然性が生まれ，その活動の中で，本時付けさせたい力を身につけさせることができることが分かった。